

【自主】自ら進んで学ぶ生徒【寛容】明朗で思いやりのある生徒【挑戦】健康でたくましい生徒
～夢の実現～ 〈重点目標〉 目標達成に向けて、ねばり強く努力する生徒

原町三中だより



平成30年1月9日(火)第9号
発行責任者：校長 熊澤 正人
TEL 22-3802

三学期は短期集中、スピード感をもって一年をまとめ成長を確認

三学期始業式にあたって

新年明けまして

おめでとうございます。

平成30年を迎えました。

皆様、明けましておめでとうございます。

昨年の三月に文部科学省より新学習指導要領が告示され、中学校は平成33年より本格実施となります。今年に移行期の一年目として、今後2030年頃までを見据えた教育の在り方を学びながら、今いる生徒がより良い人生を生きるために必要な力は何かを考え、大きく踏み出していく年になります。

保護者地域の皆様の変わらぬご理解とご支援をお願いいたします。

三学期始業式にて

1月9日(火)に三学期始業式が行われました。一年で一番短い三学期は、まとめの学期とも言われます。生徒が一年間の成長を実感し次年度への課題を明らかにするため、短期集中、スピード感をもって指導を進めます。

始業式では三学期がそれぞれの学年でどんな学期となってほしいかを話しました。

三年生はもちろん卒業に向けて、そして卒業後の進路の実現に向けて全力を尽くし、自分の将来についてしっかりと見通しをもつ学期です。

二年生は四月に迫った修学旅行の準備が本格的になりますね。楽しみにしている人も多いと思います。それとともに中学校最上級生としての自覚と行動を求められます。その覚悟をつくる学期です。

一年生はまもなく中学生としての一年を終え、四月からは新入生を迎え先輩と呼ばれるようになりますね。中学生らしい生活、学習、行動や言葉遣いができるかもう一度振り返り、後輩に手本を示せるように力をつける学期です。

今、大切にしたい

二宮尊徳の教え、報徳仕法

冬休み中に、南相馬市で発行している「二宮金次郎・富田高慶からの贈りもの」を読みました。

これは南相馬市が報徳仕法をまちづくりに生かす取組の一環として作成し、市内の小中学生に配付しているものです。

本校でも一年生を中心に、総合的な学習の時間を使い、地域を知る一環として、地域の歴史や南相馬市と二宮尊徳の深い関係やその思想、実践を学んでいます。

尊徳の教えには様々ありますが、今日はその一つを取り上げます。

積小為大 (せきしょういだい)

★小さな努力の積み重ねが大切だということ。

毎晩独学で勉強していた金治郎(尊徳)は、明かりの燃料となる油を得るため、荒れ地に自分でたった一握りの菜種をまき、七升(約12.6%)の菜種油を得た経験や、捨てられていた苗を大事に拾って、自分で荒れ地を開墾した所に丹精込めて植えて育て、秋には一俵もの粃を収穫した経験から、自然の素晴らしさを知るとともに、「小さな努力の積み重ねが大切だ」ということを学びました。

(13ページより)

時代は変わっても、小さな努力をおろそかにせず、目標に向かってねばり強く進んでいくことの価値は変わりません。

今年度の重点目標「目標達成に向けて、ねばり強く努力する生徒」を育てるためにも、覚えておきたい言葉です。

生徒に配付されている冊子

